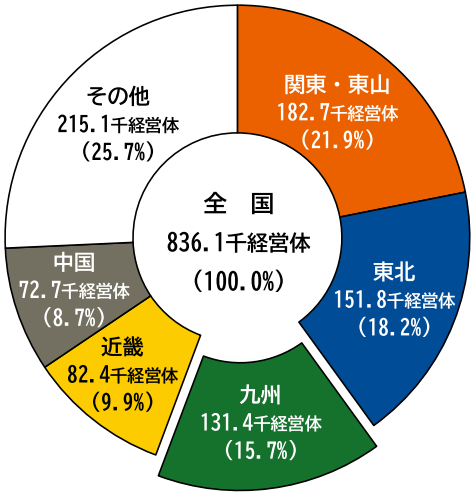
1．農業経営体　- Agricultural Management Entity -

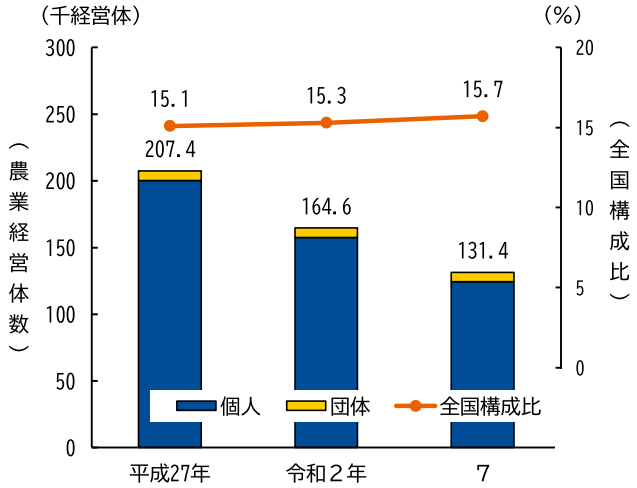
九州の農業経営体数は全国の約16%

令和７年の九州の農業経営体数は13万1,378経営体で、全国の15.7%を占めている。10年前（平成27年）と比べて７万6,063経営体（36.7%）減少したものの、全国構成比は増加傾向にある。

農業地域別 農業経営体数（令和７年）



農業経営体数の推移（九州）



資料：農林水産省統計部「農林業センサス」（以下同じ）

注　：農業経営体とは、農産物の生産を行うか又は委託を受けて農作業を行い、生産又は作業に係る面積・頭数が、次の１から３までのいずれかに該当する事業を行う者。

１．経営耕地面積が30a以上の規模の農業

２．農作物の作付(栽培)面積、家畜の飼養頭羽数又は出荷羽数、その他の事業規模が次の農業経営体の外形基準以上の規模の農業

ア 露地野菜作付面積：15ａ　イ 施設野菜栽培面積：350㎡　ウ 果樹栽培面積：10ａ　エ 露地花き栽培面積：10ａ
オ 施設花き栽培面積：250㎡　カ 搾乳牛飼養頭数：１頭　キ 肥育牛飼養頭数：１頭　ク 豚飼養頭数：15頭
ケ 採卵鶏飼養羽数：150羽　コ ブロイラー年間出荷羽数：1,000羽
サ その他：調査期日前１年間における農業生産物の総販売額50万円に相当する規模の事業

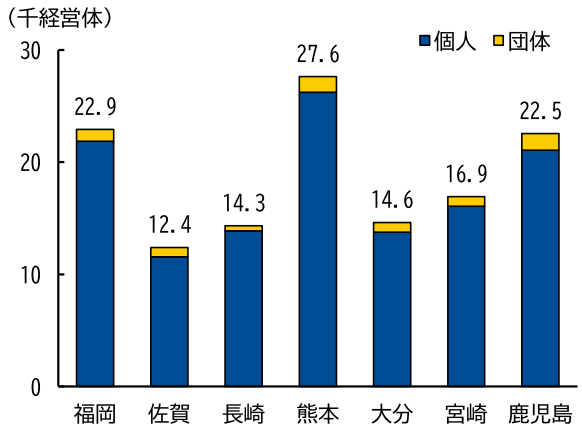
３．農作業の受託の事業

注　：四捨五入の関係で計と内訳が一致しない場合がある。（以下同じ）

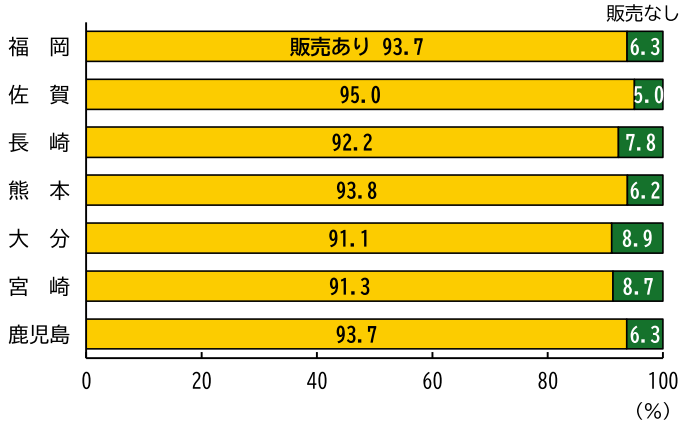
九州では熊本県が最も農業経営体数が多い

令和７年の九州各県の農業経営体数をみると、熊本県が２万7,619経営体で最も多く、次いで福岡県（２万2,921経営体）、鹿児島県（２万2,541経営体）となっている。一方、販売の有無の状況をみると、販売のあった農業経営体の割合は佐賀県が95.0%で最も高い。

九州各県 農業経営体数（令和７年）



九州各県 販売の有無別農業経営体構成割合（令和７年）

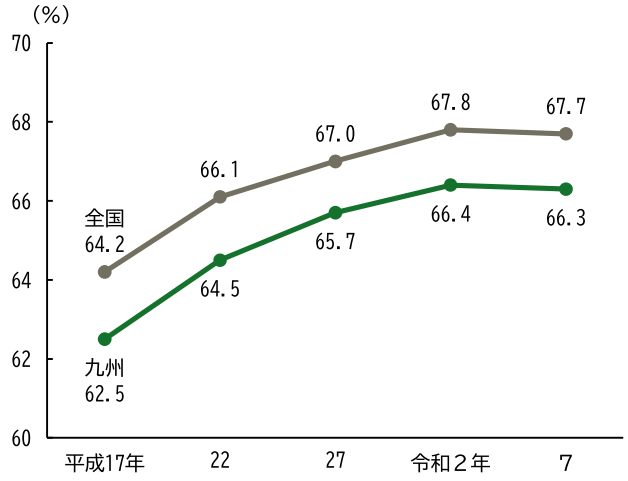


農業従事者の高齢化が進行

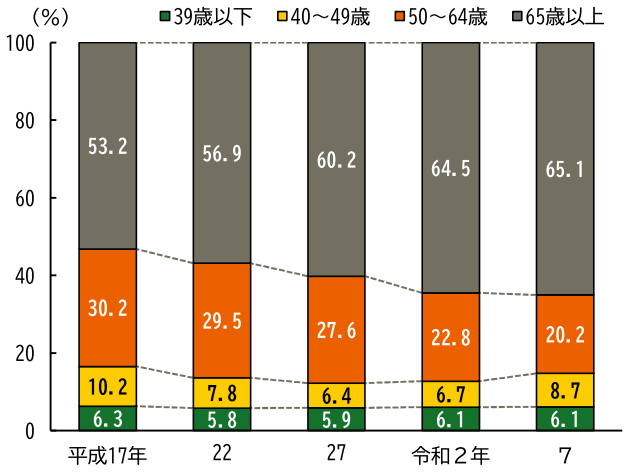
令和７年の九州の基幹的農業従事者の平均年齢は66.3歳で、全国平均（67.7歳）を1.4歳下回っている。５年前（令和２年）と比べると0.1歳低下したものの、20年前（平成17年）と比べると3.8歳上昇しており、高齢化は続いているが、近年は横ばい傾向で推移している。

また、基幹的農業従事者の年齢別構成割合の推移をみると、20年前（平成17年）と比べて65歳以上の割合は11.9ポイント上昇しており、近年は49歳以下の割合も上昇傾向にある。

基幹的農業従事者の平均年齢の推移（全国・九州）



基幹的農業従事者の年齢別構成割合の推移（九州）



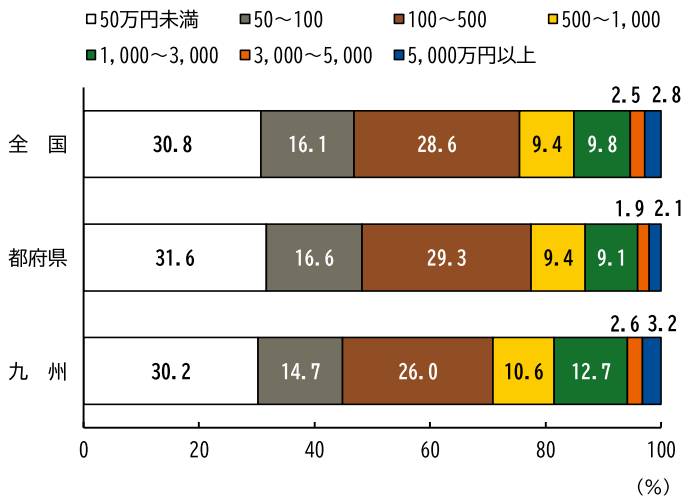
注　：基幹的農業従事者とは、15歳以上の世帯員のうち、ふだん仕事として主に自営農業に従事している者。

販売金額規模の大きな経営体の割合が上昇

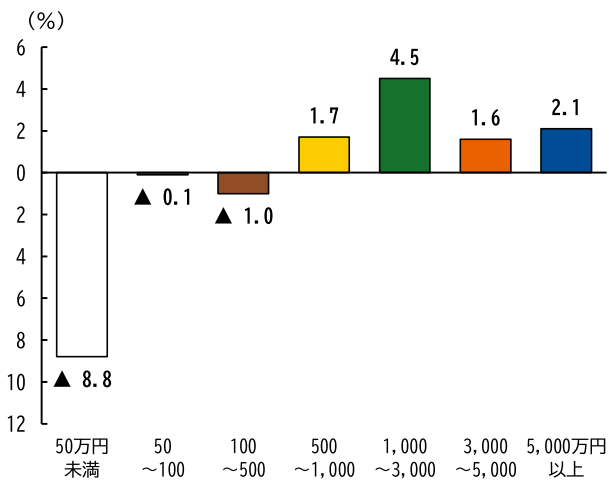
令和７年の九州の農産物販売金額規模別経営体の構成割合をみると、販売金額1,000万円以上の割合は18.5%で、全国（15.1%）を3.4ポイント上回っている。

また、九州の構成割合の変化をみると、20年前（平成17年）と比べて500万円未満の割合が低下した一方、500万円以上の割合は上昇しており、経営規模の拡大が進んでいることがうかがえる。

農産物販売金額規模別経営体構成割合（令和７年）（全国・都府県・九州）



構成割合の変化（九州）（平成17年▶令和７年）



注　：50万円未満は、販売無しを含む。